

グループホーム こもれび
 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		朝の申し送り時の理念および年間目標の唱和を継続する。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内大掃除・秋祭りの参加などの地域活動を継続していき、さらに地域との交流に努めたい。

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々と良好な関係を築くことにより、個々の認知症についての悩みや介護方法についての相談にのっている。		事業所全体としての取り組みをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施することにより、サービスの質の客観性を高め、サービスの質の改善に繋げるという評価の意義を理解している。また、評価を活かしホーム内での勉強会や会議を通し、日々の支援方法を振り返り改善に取り組んでいる。		内部評価だけではなく、より客観的な視点から行なわれる外部評価を定期的に行い、改善に取り組んでいきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に運営推進会議を実施し、ご家族・町内会・地域包括支援センターの方々と、積極的に意見交換を行なっている。また推進会議でのご意見は職員での各会議にて報告し、話し合いを行い、サービスの向上に活かしている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は運営推進会議以外でも、市町村の担当者より助言を頂いたり、市町村の研修会に参加させて頂く等、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、研修や勉強会で学んだことを必要な方にお知らせし、成年後見制度を活用できるよう支援している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や新人研修等を通じ、虐待についての理解を深め、虐待が見過ごされないよう注意し、防止に努めている。		拘束も虐待の一部であることの認識の徹底と、安全面への過剰重視が、心身の拘束に繋がらないよう注意していききたい。

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、重要事項説明書等により十分説明し、理解・納得いただいた上で、契約を結んだり、解約したりしている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者が話しやすい雰囲気作りを心がけている。職員は積極的に声掛けをし、意見や希望を聴くようにしている。また、運営推進会議に出席いただき、意見を述べていただく機会を設けている。意見等は会議で話し合い、運営に反映させている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	随時、電話連絡を行っている。また、個々の入居者様のご様子を、毎月担当者がご家族へ書面にてお知らせしている。金銭管理の依頼をされている方には、当月の出納簿のコピーと領収書を送付している。		事業所全体としての広報誌の発行を検討していきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、意見・不満・苦情をいつでもお受けする苦情処理体制を説明している。また、運営推進会議に出席いただき、意見を述べていただく機会を設けている。ご質問等気軽に声をお掛けいただくよう掲示するとともに、ご意見箱を設置し、運営に反映させている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロアー会議で出た事案を、リーダー会議・全体会議で取り上げ、職員の意見・提案を運営に反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤帯各フロアー3名、夜勤帯各フロアー1名の体制をとっており、協力体制のもと、特変があっても対応できている。また、緊急時には連絡網により、勤務の調整が出来るようになってきている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限としている。また、異動・退職により新人職員が介護にあたる場合は、馴染みの職員が共に勤務し、ご利用者の精神的不安が生じないように努めている。		

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は受講の申し出により、研修を受ける機会を与え、同時に、研修で学んだことを全体会議で発表させ、職員全体の質の向上を図っている。また、働きながらの資格の取得もすすめている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修や介護支援専門員自主勉強会の参加を通し、同業者との交流を行なっている。他の事業所の取り組みを参考にサービスの質の向上を目指している。</p>	<p>開設者研修の一環として、他施設への見学、当施設へ3名の見学者を受け入れる機会があった。職員にも他事業所の介護現場見学の機会を検討したい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>忘年会、秋祭りの慰労会を行っている。また、会議等で介護についての悩みを自由に話せる環境づくりをしている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の意見や発想を尊重し、実践できるよう努めている。また年間個人目標・年間フロー目標を立てることにより、目的意識や向上心を持って働けるよう配慮している。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約に至る前に、聞き取り調査に伺い、ご本人の希望や不安なこと等を、当該フロアの計画作成担当者がじっくり聴かせていただく機会をもち、思いを受け止める努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約に至る前に、聞き取り調査に伺い、ご家族の思いや不安なことなどを把握し、受け止める努力をしている。</p>	

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取り調査で、入所を希望するに至った経緯を良くお聴きし、これから取るべき最善の方法をアドバイスするよう心がけている。		相談を受けた時、最善の方法をアドバイスできるよう、他の事業所や医療関係との連絡を絶えず密に取っていききたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご本人に見学に来て頂き、雰囲気慣れて頂いている。また、隣接のデイサービスの利用からの入居や、体験入居をお勧めする等、ご本人・ご家族と相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の得意なことを、学ばせていただくという職員の姿勢により、生きがいや活動意欲に繋げている。また、『介護する側』『介護される側』という関係ではなく、共に支えあう関係作りを目指している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力、支えなしでは良いケアは出来ないことを、理解していただき、共に悩みを話し合える関係を築くよう努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでのご家族との関係を大切にし、ホームに入居されてもその関係が継続できるよう配慮している。また、ご家族の悩み等をお聴きし不安を取り除くことにより、両者がより良い関係になれるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで住まわれていた近隣の方々が、気軽に訪問でき、ご本人と居心地よく過ごすことができるよう努めている。		個別の馴染みの場所にお連れするのはご家族の協力なしでは実現困難な状況であるが、近隣への買物や、お食事にお連れする回数等を増やしていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者同士の関係を大切にし、時には利用者の中に入り調整しながら、利用者同士仲良く、支えあい生活できるよう努めている。		介護度、症状も様々になり、これからはご利用者同士良い関係を保っていくための配慮が、今にもまして必要とされる。トラブルが起こらないよう一層の支援に努めていききたい。

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録に、日々の状態や気づき等を記録し、職員間での情報の共有の徹底に努め、実践、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型共同生活介護のため特にしていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者に活気ある生活を送って頂くため、ボランティアの方々から日舞や演奏等の協力を得ている。警察や消防機関との連携もとれ、協力しながらの支援を行なっている。		文化・教育機関との協力体制は、現在取れていない。近隣の佐伯区民文化センターの利用等検討していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	認知症対応型共同生活介護のため、他のサービスは利用していないが、ご本人よりの希望がある場合、当事業所のデイサービスで絵手紙や習字等に参加できるよう支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会に出席を依頼し、必要に応じて助言をいただく等地域包括支援センターと協働している。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の意向にそったかかりつけ医を持って頂いている。適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医と連絡を取り合いながら支援している。		

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携病院の脳内科の専門医が毎週健康相談に来訪し、職員やご利用者の相談・指導にあっている。また、必要に応じ、ご利用者の診断・治療も行なっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内に准看護師が1名勤務している。また、緊急時には、隣接の提携病院からの支援が受けられる体制にある。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は、ご利用者が不安にならないよう、出来るだけ見舞いに行き、病院との情報交換に努めている。また、隣接の提携病院への入院の場合は、一時退院を試みるなど早期退院に向けての取り組みを行なっている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約前に、終末期医療は行なえない旨を説明するなど、重度化した場合の指針をお渡しし、理解をいただいている。また、かかりつけ医とも連絡を取り合い方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	どこまでホームでお世話できるか検討を重ね、ご本人・ご家族の意向を尊重し、提携病院の医師等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。		生活の質を優先するか、医療面を重視するかの選択に迫られることがある。ご家族・ご本人の意思を尊重し、その意向に添うようにしているが、ある程度の線引きは必要かと思われる。提携病院の医師等とその枠組み作りをしていきたい。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人が別の場所に移り住む際は、ご家族や関係者の方と十分な話し合いを行い、情報交換に努めている。また、情報提供表を作成・提供し、住み替えによるダメージを少しでも防げるよう配慮している。		

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録等については、個別のファイルに整理し、部外者の目に触れないよう細心の注意をしている。特に入浴やトイレ介助時等、言葉掛けや対応で誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>信頼関係を築くことにより、思いや希望を自由に話せる環境づくりを心がけている。自己決定の難しい方や希望を言葉にあらわせない方には、表情・態度から、思いを汲み取る努力をしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の都合等を優先することはないが、ご利用者の生活リズムの乱れから認知症状の進行や、健康上の問題が出てくる恐れがある場合などには、ある程度のお願いをしている。</p>		<p>お一人ひとりのペースを尊重しながら、自然な形で無理なく生活のリズムをもって過ごして頂ける工夫を、重ねていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月2回の、隣接の有料老人ホームの訪問理美容を利用され、それぞれがご自分の好みに合った髪型を楽しまれている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日の食事作りは、ご利用者や職員の負担が大きく、困難な状況にあり、隣接の施設で作り、盛付け・配膳・片付けのみを一緒に行なっている。現在は月に一度、昼食作りを楽しんで頂いている。食事は、職員と共に食卓を囲み和やかにされている。また、嗜好調査で好みの把握に努め、毎月の給食会議で希望等を伝えている。</p>		
<p>55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつは、なるべくご利用者と一緒手作りする事を心がけている。また、おやつや飲み物等を買っていく時には、好みのものを尋ね希望に添えるよう支援している。</p>		<p>現在は、お酒や、タバコを希望される方はおられないが、今後、希望があれば、安全面との兼ね合いを考えながら、ご本人・ご家族との話し合いのもと、実施していけるようにしたい。</p>

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を記録することにより、排泄パターンの把握に努め、排泄パターンに合わせたトイレ介助を行なっている。また、水分を多めに取っていただき、便秘の解消に努めている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通常期は週2回、夏期(7月～9月)は週3回入浴して頂いている。当日、入浴できなかった方には、翌日に入浴頂く等の配慮をしている。身体的に一般浴が困難な方には、隣接ホームの特殊浴で対応している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	添い寝や照明、室温、寝具等の入眠しやすい環境を整えている。また、その時々状況に合せ、健康相談医と連絡を密に取りあいながら、安眠が出来るよう支援している。車椅子を利用されている方には、なるべく足を上げて休息して頂く等、浮腫が起こらないよう配慮した支援をしている。		夜間、徘徊される方の対応について、勉強会を重ねていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者が張り合いのある日々を過ごせるよう、毎月の食事会で季節の行事を楽しんで頂いている。又、ドライブや園芸等で気晴らしして頂けるよう支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し、希望や状態に応じ、職員付き添いのもとで、小額のお金を所持し買物に出かけられるよう努めている。また、必要な物や好みの物等をお申し出頂き、買物代行を行なっている。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望にそい、庭の畑や、散歩にお付き合いするなど戸外に出る機会をつくるよう心がけている。		各フロアの協力体制により、戸外に出られる機会が、より多く持てるようにしていきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に応じドライブ・初詣・花見・外食等に出かけている。個別の対応は、ご家族の協力により行なわれている。		

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との手紙のやり取りや、電話をかけたり、取り次ぐなどの支援をしている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方々に、気軽に訪問し気持ちよく過ごして頂けるよう湯茶の接待で歓迎し、ご利用者と和やかに過ごせるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束についての規程』のマニュアルを作成し、各フロアーに配置しており、職員は身体拘束の具体的な行為を理解し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵を掛けることはないが、安全のため玄関は暗証番号により開錠できるようにしている。全ての職員は鍵を掛けることの弊害を理解しており、ご利用者からの申し出があった時には、直ちに開錠している。庭やベランダには自由に出入りして頂いている。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアーおよび廊下は見守りやすい配置になっている。職員は、ご利用者の所在や様子の確認を絶えず行ない、安全面に細心の注意をはらっている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の保管には、危険がないよう気をつけている。何時、どのような事態が起こるか分からないとの不安から、ハサミやナイフ等の使用は職員見守りの中でしか行なわれていない。		お一人おひとりの状態に合せた対応が出来るか、検討していきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットやインシデント報告書等の記録を行っている。また、定期的に検討会議を開き、再発防止に努めている。		

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時の対応について、マニュアルを作成し、職員一人一人が応急手当や初期対応ができるよう、提携病院の医師より指導を受けている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により、火災非難訓練を毎年行っている。また、災害時の緊急連絡網も整備し非常時に備えている。近隣の施設や提携病院とも連携できるようにしている。		
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒の危険性が高いご利用者のご家族には、前もってリスクを説明するとともに、家族の意向を踏まえ職員間で対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的また随時にバイタル測定を行い、体調管理に努めている。異変時には、速やかに各職員・提携病院へ連絡を取り、対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、服薬内容を確認し服薬支援をしている。起こりうる副作用や注意点等、毎週来る健康相談医に気軽に聞ける体制作りをしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘により、周辺症状が悪化することを職員は良く理解しており、便秘予防に取り組んでいる。(水分・食物繊維の摂取・リハビリ運動) 3日以上排便が無い場合は、医師の指示で服薬を行なっている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔内の清潔を心がけ支援している。異変が認められる場合は、家族の了解を得て訪問歯科の医師に診察をお願いしている。		

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、摂取量を記録し、把握に努めている。栄養士によりバランスの良い食事を心がけ、嚥下状態の悪い方にはきざみ食を提供する等、細やかな対応に努めている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成している。インフルエンザ対策として予防接種・加湿器で対応している。また、手洗いの励行・清掃にも注意している。		全職員を対象とした勉強会の継続
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	隣接施設での食材の加工は衛生管理を徹底している。また、食材は毎日配達してもらい、新鮮で安全なものを提供できるよう努めている。ホーム内では、手洗い後の食器も食洗機にかける等、台所・食器の衛生管理に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は、周辺の住宅地に馴染みやすく違和感のない景観としており、施設名の表示、植栽にも配慮している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天候に合せ照明も工夫できるように、複数の照明を整備している。居間や食堂は南面に配置し、窓から畑や田んぼが見え季節感を感じられるよう配慮している。また季節に合わせた室内飾りなどを行っている。交通の便のよい所ではあるが、周辺は静かである。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、畳スペースを配置し、それぞれの方が思い思いの場所で過ごされている。ひとつの空間であるため、独りにならなりたい時は、ご自分の居室で過ごされている。		

グループホーム こもれび

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族により今まで使われていた物や、好みの物を持ってきて頂き、居心地良く暮らせるよう工夫をしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・温度調節は、空調管理システムにて行なっている。朝の清掃時には必ず窓を開け換気に注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーとなっている。また、各所に手すり等を整備し、ご利用者が安全に自立した生活ができるよう工夫している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご自分の部屋は、それぞれ花のプレートで表示されている。またトイレも分かりやすく表示している。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭やベランダは、ご利用者に洗濯物を干して頂いたり、日光浴を楽しむなどで活用している。ホームの前庭では、花火や食事を楽しむこともある。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム こもれび

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)